

# J.LEAGUE™ NEWS

© J.LEAGUE PHOTOS



親子で学ぶサイエンスサッカー学校



Jリーグ&名古屋グランパス お仕事体験企画

© J.LEAGUE PHOTOS



キャノン Jリーグミュージアム 2011

© J.LEAGUE PHOTOS



アイテムしごと探検隊

## Jリーグオフィシャルスポンサー・パートナーとともにイベントを実施

ピッチ上でJリーグのチーム、選手が熱い戦いを繰り広げ、Jリーグのオフィシャルスポンサー・パートナーも夏休みに入って各地でさまざまなイベントを開催した。Jリーグもこれらのイベントに協力、あるいはJリーグとJクラブが実施した企画にパートナーの協力を仰ぐなど、催しを盛り上げた。イベントに参加した子どもたちや見学者にとっては、夏休みの思い出深い一日となったことだろう。(2ページに関連記事)

J.LEAGUE™ OFFICIAL SPONSORS



J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



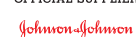
SUPER CUP SPONSOR



J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



SPORTS PROMOTION PARTNER



# Jリーグオフィシャルスポンサー・パートナーがイベントを開催

Jリーグオフィシャルスポンサー・パートナーとともに、Jリーグが協力するイベントなどが、夏休みに各地で開催された。それぞれの特色を生かし、サッカーやJリーグを盛り上げようという催しは、いずれも興味深いものばかり。おなじみとなったイベントあり、初めて行われるイベントありで、子どもたちが中心となって楽しい時を過ごした。

## 親子で学ぶサイエンスサッカー学校 (主催：東京エレクトロン株式会社)

今年よりJリーグオフィシャルスポンサーとなった東京エレクトロン株式会社が主催し、Jリーグやヴァンフォーレ甲府などが協力した「親子で学ぶサイエンスサッカー学校」が8月20日、国立競技場で行われた。サッカーを通して、科学をより身近に感じてもらうことを目的としたイベントで、今回が初開催。小学4～6年の男女と保護者、50組100人が参加した。ゲストの北澤豪、岩本輝雄の両氏(JリーグOB選手)もイベントに協力し、第2部のサッカー体験プログラムでは子どもたちとの試合でプレー

した。

第1部で行われたのは科学実験プログラム。空気中を移動する物体に働いて軌跡を変化させる「マグヌス力」をテーマに、ボールの飛ぶコースが曲がるバナナシュートの原理を、装置などを使って解説。子どもたちは、その力を生かしたマグヌスカイト(たこ)揚げにも挑戦した。科学実験講師を務めた稲田大祐氏(NPO法人ガリレオ工房)は「プロの技の中には、科学の原理が隠れている。しっかり勉強することが、サッカーがうまくなるコツ」と総括。北澤氏

は「サッカーをプレーする場所で科学を学ぶところに、分かりやすさがある」と、コラボレーションの意義を語った。山梨県から来た小学4年の飯室光明君は、親子でおそろいの甲府のレプリカユニフォームを着て参加。「バナナシュートの蹴り方は勉強になった。カイトもうまく揚げることができた」とうれしそうに話していた。

参加者はイベント終了後、国立競技場で開催されたJ1リーグ戦第22節、甲府vs浦和レッズの観戦を楽しんだ。



子どもたちはサッカーを通して科学の一端に触れた後、美しい緑の芝生の上でボールを追い掛け



装置を使ってバナナシュートの原理を解説

## キャンノン Jリーグミュージアム2011

Jリーグオフィシャルスポンサーのキャンノンマーケティングジャパン株式会社が主催する写真展、「キャンノンJリーグミュージアム2011」が、8月に愛知県名古屋市ジェイアール名古屋タカシマヤ、キャンノンデジタルハウス名古屋、大阪府大阪市のキャンノンプラザ梅田で開催された。

名古屋ではJリーグの歴代優勝クラブやスター選手、名古屋グランパス、大阪では関西4クラブの写真を中心に展示。ジェイアール名古屋タカシマヤでは、昨シーズンの名古屋のJ1リーグ戦優勝記念展示として、Jリーグ杯(優勝銀盾)や名古屋の選手のサッカーシューズなども披露。JリーグOB選手などによるスペシャルトークショーも開催された。大阪の会場ではアンケートに答えて豪華賞品が当たる催しも行われた。



当選者に賞品を手渡した秋田豊氏。中央は森島寛晃氏

## アイデム しごと探検隊

Jリーグオフィシャルスポンサーの株式会社アイデムが主催する「アイデムしごと探検隊」が、7月28日にJFAハウスで行われた。小学生が「仕事」の現場を訪問し、「仕事・働くこと」について考える機会を提供することを目的とし、こししが5回目の開催。小学5～6年の男女20人が参加した。

大東和美Jリーグチェアマンから「どんどん質問して、探検してください」と歓迎を受けた子どもたちは、サッカーに関連した仕事に携わるアナウンサー、審判、フォトグラファーの話に耳を傾け、Jリーグの関連会社などを訪問。最後に日本サッカーミュージアムを見学し、JリーグOB選手の小倉隆史氏から記念品を手渡されてJFAハウスを後にした。



Jリーググッズの制作、販売などについての説明を受ける

## Jリーグ&名古屋グランパス お仕事体験企画 (協力：朝日新聞社)

Jリーグと名古屋グランパスは7月23日、J1リーグ戦第6節の名古屋vsサンフレッチェ広島が開催された名古屋市瑞穂陸上競技場で、Jリーグ百年構想パートナーの朝日新聞社の協力で、小学生の子どもたちに「仕事」の現場を見学、体験してもらう「Jリーグ&名古屋グランパスお仕事体験企画」を実施した。

こしし3回目の開催となったイベントには、小学4～6年の男女と保護者、5組10人が参加。試合前には入場ゲートでマッチデープログラムを入場者に配布し、選手のウォーミングアップ中にはピッチサイドでボール拾いの仕事を体験した。また、試合終了後には選手たちがプレーしたピッチを管理するターフキーパーの仕事にも熱心に取り組んだ。



入場ゲートでマッチデープログラムを配布



# 2011 J.LEAGUE YAMAZAKI NABISCO CUP

## 2回戦進出チームが決定

### 2011 Jリーグヤマザキナビスコカップ1回戦第2戦



©J.LEAGUE PHOTOS

山形 1-2 浦和

後半開始早々に同点ゴールを決めた浦和の柏木



©J.LEAGUE PHOTOS

福岡 0-3 磐田

山本康(左、磐田)のドリブルを追う福岡の成岡



©J.LEAGUE PHOTOS

仙台 2-1 柏

試合終了直前に勝利を決定づける得点を決めた仙台の富田



©J.LEAGUE PHOTOS

清水 2-0 甲府

先制点を決めるなど、チームを勝利に導いた清水の小野



©J.LEAGUE PHOTOS

川崎F 3-1 広島

1得点、1アシストの活躍を見せた川崎Fの登里(右)



©J.LEAGUE PHOTOS

神戸 1-2 横浜FM

チームを2回戦に導く逆転ゴールを決めた横浜FMの谷口

2011 Jリーグヤマザキナビスコカップ1回戦第2戦の6試合が7月27日に行われ、2回戦に進出するチームが決まった。

浦和レッズはモンテディオ山形に先制を許すも、後半に入ってMF柏木陽介がFKを直接決めて追い付くと、7月にチームに加わったFWデスポトビッチが決めて、2-1と逆転勝ち。第1戦に続く勝利で2回戦へ勝ち進んだ。

ジュビロ磐田もアビスパ福岡に2連勝。第2戦はDF加賀健一の先制点などで3-0と快勝し、2連覇に向けて一歩前進した。ベガルタ仙台も2戦2勝で2回戦へ進出。第2戦は柏レイソルのリードで始まったが、後半開始早々にMF角田誠、同アディショナルタイム3分にMF富田晋伍が決めて、2-1の逆転勝ちを取めた。

第1戦でヴァンフォーレ甲府に0-1と敗れた清水エスパルスは、MF小野伸二のPK、FW高木俊幸の得点で2-0で勝利。対戦成績は1勝1敗となり、2試合合計スコアを2-1として1回戦を突破した。川崎フロンターレはFW小林悠の2得点などで、昨年のファイナリストであるサンフレッチェ広島に3-1と快勝。1勝1分の成績で2回戦へ駒を進めた。横浜F・マリノスは、MF谷口博之が逆転ゴールを決めてヴィッセル神戸に2-1と勝利し、1勝1分の成績で1回戦を勝ち抜いた。

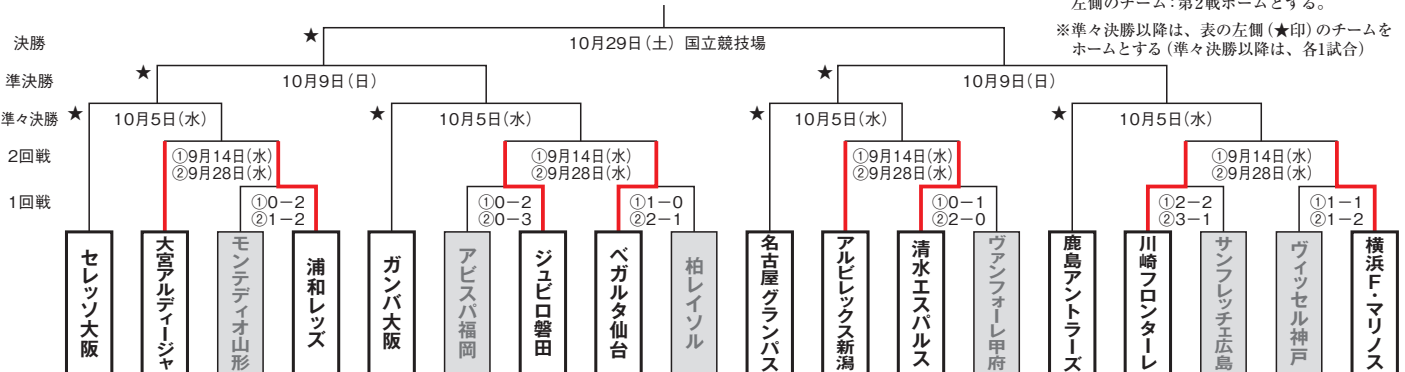
9月に行われる2回戦では、浦和vs大宮のさいたまダービー、横浜FMvs川崎Fの神奈川ダービーが実現。仙台vs磐田、清水vs新潟と合わせ、いずれも熱戦が期待される。

#### Power to the KIDS サッカークリニック 茨城県でも開催



東日本大震災の復興支援への思いを込めた「2011 Jリーグヤマザキナビスコカップ Power to the KIDS サッカークリニック」が7月23日、被災地の一つである茨城県で開催された。鹿島アントラーズと柏レイソルのスクールが合同で実施。両クラブのアカデミースタッフの指導を受け、子どもたちは夏休みの一日を楽しく過ごした。参加者にはヤマザキナビスコのお菓子がプレゼントされた。

#### 2011 Jリーグヤマザキナビスコカップ トーナメント表



## J1昇格プレーオフ(仮称) 2012シーズンより導入および大会方式の決定について

Jリーグは8月18日に開催した理事会で、2012シーズンからの「J1昇格プレーオフ(仮称)」導入および大会方式について決定した。大会の正式名称および日程など詳細については、決定次第発表する。

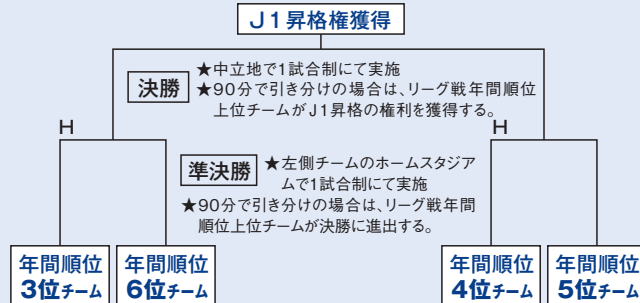
### ■大会名称：J1昇格プレーオフ(仮称)

### ■導入シーズン：2012シーズンより

### ■大会方式：

J2リーグ戦年間順位3位チームvs6位チーム、4位チームvs5位チームによる1試合制の準決勝を行う。準決勝の勝利チーム同士の対戦による決勝を中立地で開催し、勝利チームが翌シーズンのJ1昇格権利を得る。なお、準決勝および決勝とも90分で引き分けの場合は、年間順位の優位性を確保するため、年間順位が上位のチームを勝利扱いとする。

### J1昇格プレーオフ(仮称) トーナメント表



※準決勝は左側チーム(H印)のホームスタジアムで開催する。 ※決勝は中立地で行う。

### ■備考：

- (1) J1の昇格権利を得たチームは、Jリーグ理事会の承認を経て、昇格が最終決定する。
- (2) 審査により、年間順位3~6位のチームにJ1昇格の資格がない場合、年間順位7位以下の繰り上げ出場はない。
- (3) 審査により、年間順位1、2位のチームにJ1昇格の資格がない場合、年間順位3位以下の繰り上げはない。(3~6位のチームがプレーオフ出場を免除されることはない)

## 磐田がPK戦を制して初優勝。Jクラブが2連覇



スルガ銀行  
チャンピオンシップ2011  
SHIZUOKA  
Jリーグヤマザキナビスコカップ/コパ・スタメリカーナ  
王者決定戦

静岡県のエコパスタジアムで8月3日に行われた「スルガ銀行チャンピオンシップ 2011 SHIZUOKA Jリーグヤマザキナビスコカップ/

コパ・スタメリカーナ 王者決定戦」において、ジュビロ磐田がインデペンディエンテ(アルゼンチン)を2-2からのPK戦で4-2と破り、初優勝を飾った。

この大会は、ヤマザキナビスコカップと、南米のクラブカップ戦であるコパ・スタメリカーナの優勝チームが対戦する国際タイトルマッチで、2008年の第1回からいずれも日本で開催されている。昨年はFC東京が優勝しており、Jクラブが2連覇を達成。日本勢と南米勢の通算対戦成績は2勝

2敗となった。

磐田は立ち上がりからテンポ良くパスをつないで攻め込み、11分に相手のオウンゴールで先制した。一方、南米の名門であるインデペンディエンテも次第に動きが良くなり、33分にはDFトウシオが同点ゴール。前半を1-1で折り返した後、後半開始間もない48分にはFWパツァが個人技を生かして逆転ゴールを決めた。反撃に転じた磐田は、後半から出場したFW 荒田智之が見事なボレーシュートで同点とした。



シュートを放つ荒田。後半からの出場で大貴重な同点ゴールを決めた

90分の戦いは2-2のスコアで終了。大会規定により延長戦は行われず、PK戦では「タイトルを取ることで強いチームになると信じている。どうしても勝ちたかった」というGK川口能活が2本のキックをセーブする活躍を見せるなど、磐田が1998/99シーズンのアジアクラブ選手権(現AFCチャンピオンズリーグ)優勝以来となる国際タイトルを獲得した。



南米の名門を下して久々の国際タイトルを獲得

## 「2011 Jリーグアウォーズ」開催概要 決定

Jリーグは、Jリーグの年間表彰式「2011 Jリーグアウォーズ」を、12月5日(月)18時30分(予定)より横浜アリーナ(神奈川県横浜市)で開催する。Jリーグアウォーズは、今シーズンのJリーグで活躍した選手・監督、クラブ、審判などの功績をたたえ、多くの関係者、ファン・サポーターとともに1年を締めくくる場となる。今年は会場を4年ぶりに横浜アリーナへ移し、一般参加応募も行う予定。応募方法の詳細については、決定次第発表する。

## 第3回パワーチェアフットボールブロック選抜大会を後援

Jリーグは8月18日に開催した理事会で、「第3回パワーチェアフットボールブロック選抜大会」を後援することを決定した。本大会は、日本における電動車椅子サッカーの普及振興、およびワールドカップに向けた技術向上、選手の育成強化を図ることを目的とする。大会は8月20、21日にニチイ学館 神戸ポートアイランドセンターで開催された。

## 松田直樹選手逝去

さる8月4日、JFLの松本山雅FC(Jリーグ準加盟クラブ)に所属する松田直樹選手が急性心筋梗塞のために長野県松本市内の病院で亡くなった。34歳だった。

松田選手は1995年に横浜マリノス(現横浜F・マリノス)に加入。同クラブで16シーズンを過ごし、J1リーグ戦優勝3回などチームの中心選手として活躍。また、日本代表として2002 FIFAワールドカップ日本/韓国にも出場した。今シーズンから、Jリーグ入会を目指す松本山雅FCでプレーしていた。

Jリーグと全38クラブは、松田選手への哀悼の意を込めて、8月5~7日のJ1第20節、J2第3節の試合会場で、半旗掲揚、キックオフ前の黙とう、選手・スタッフ(審判団を含む)の喪章着用を行った。



日立柏サッカー場での黙とう(8月6日、J1第20節、柏vs横浜FM)

# 2010年度Jクラブ経営情報開示

JリーグはJクラブ経営の透明性向上のため、2005会計年度分より、クラブ別の個別経営情報を発表し、2006会計年度からは、全クラブの全ての項目が開示となった。2010会計年度は、J1が18クラブ、J2が19クラブ(1クラブ増加)、計37クラブの編成で、J1は前年度同様1ステージ制、J2は18クラブの3回戦制から19クラブの2回戦制となり、ホームゲームが7または8試合減少した。

J1の1クラブ当たりの平均営業収入は30億3000万円(前年度比-8%)、J2は9億2600万円(同+4%)だった。クラブ別売上高規模分布表で見ると、J1・J2合わせて営業収入30億円以上のクラブは10クラブ(前年同)となり、そのうち営業収入40億円以上のクラブが前年度に比べ1クラブ減少し、3クラブとなった。

1クラブ当たりの平均広告料収入はJ1が13億5400万円(前年度比-9%)、J2が4億5500万円(同+23%)、平均入場料収入はJ1が6億8200万円(同-2%)、J2が1億6800万円(同-2%)、Jリーグ配分金はJ1が2億9000万円(同+2%)、J2が1億700万円(同-4%)だった。

## クラブ別売上高規模分布表

年度	2010年度						2009年度					
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
10億円未満	0	0.0%	14	73.7%	14	37.8%	0	0.0%	12	66.7%	12	33.3%
10億円以上20億円未満	2	11.1%	3	15.8%	5	13.5%	2	11.1%	5	27.8%	7	19.4%
20億円以上30億円未満	6	33.3%	2	10.5%	8	21.6%	6	33.3%	1	5.6%	7	19.4%
30億円以上40億円未満	7	38.9%	0	0.0%	7	18.9%	6	33.3%	0	0.0%	6	16.7%
40億円以上	3	16.7%	0	0.0%	3	8.1%	4	22.2%	0	0.0%	4	11.1%
合計クラブ数	18	100.0%	19	100.0%	37	100.0%	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%

## クラブ別経常利益規模分布表

年度	2010年度						2009年度					
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円未満	9	50.0%	8	42.1%	17	45.9%	5	27.8%	10	55.6%	15	41.7%
0円以上20百万円未満	3	16.7%	7	36.8%	10	27.0%	3	16.7%	5	27.8%	8	22.2%
20百万円以上40百万円未満	2	11.1%	2	10.5%	4	10.8%	4	22.2%	3	16.7%	7	19.4%
40百万円以上	4	22.2%	2	10.5%	6	16.2%	6	33.3%	0	0.0%	6	16.7%
合計クラブ数	18	100.0%	19	100.0%	37	100.0%	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%

## クラブ別純資産規模分布表

年度	2010年度						2009年度					
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円未満	4	22.2%	6	31.6%	10	27.0%	4	22.2%	4	22.2%	8	22.2%
0円以上50百万円未満	2	11.1%	4	21.1%	6	16.2%	3	16.7%	4	22.2%	7	19.4%
50百万円以上1億円未満	1	5.6%	3	15.8%	4	10.8%	0	0.0%	4	22.2%	4	11.1%
1億円以上2億円未満	2	11.1%	2	10.5%	4	10.8%	2	11.1%	2	11.1%	4	11.1%
2億円以上	9	50.0%	4	21.1%	13	35.1%	9	50.0%	4	22.2%	13	36.1%
合計クラブ数	18	100.0%	19	100.0%	37	100.0%	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%

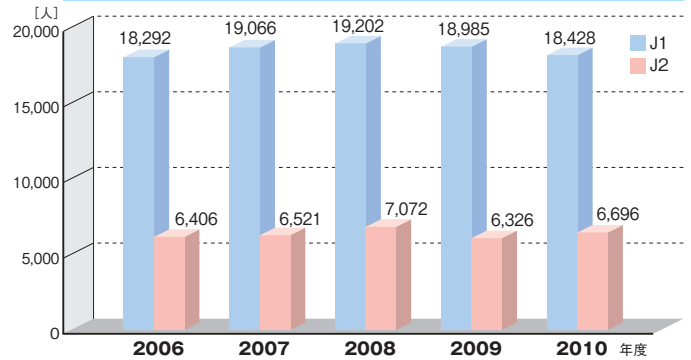
## クラブ別借入金規模分布表

年度	2010年度						2009年度					
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円	6	33.3%	7	36.8%	13	35.1%	6	33.3%	7	38.9%	13	36.1%
1円以上50百万円未満	1	5.6%	1	5.3%	2	5.4%	0	0.0%	2	11.1%	2	5.6%
50百万円以上1億円未満	0	0.0%	3	15.8%	3	8.1%	0	0.0%	4	22.2%	4	11.1%
1億円以上2億円未満	3	16.7%	4	21.1%	7	18.9%	2	11.1%	2	11.1%	4	11.1%
2億円以上5億円未満	3	16.7%	1	5.3%	4	10.8%	5	27.8%	2	11.1%	7	19.4%
5億円以上	5	27.8%	3	15.8%	8	21.6%	5	27.8%	1	5.6%	6	16.7%
合計クラブ数	18	100.0%	19	100.0%	37	100.0%	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%

## チーム人件費(監督・コーチ・選手) / 売上高比率分布表

年度	2010年度						2009年度					
	人件費比率	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
40%未満	3	16.7%	6	31.6%	9	24.3%	3	16.7%	7	38.9%	10	27.8%
40%以上50%未満	6	33.3%	10	52.6%	16	43.2%	6	33.3%	9	50.0%	15	41.7%
50%以上	9	50.0%	3	15.8%	12	32.4%	9	50.0%	2	11.1%	11	30.6%
合計クラブ数	18	100.0%	19	100.0%	37	100.0%	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%
平均比率		49.1%		47.6%		48.8%		49.1%		47.6%		48.8%

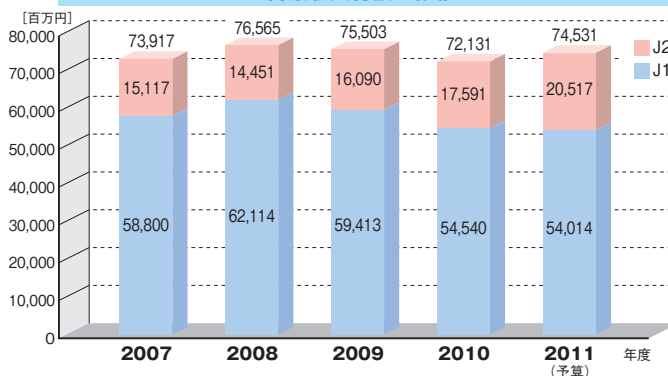
## 1試合当たりの入場者数平均の推移



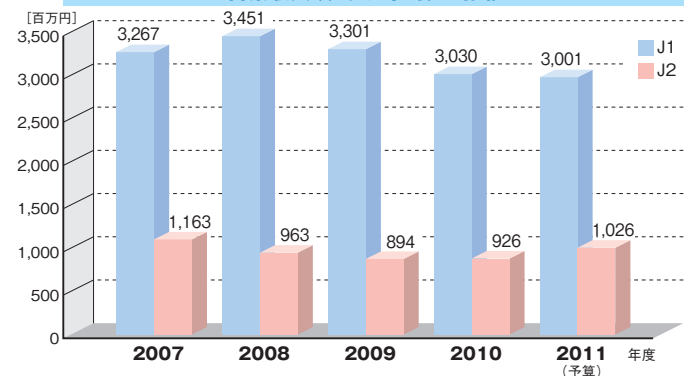
## (参考) 1試合当たりの入場者数

2009年度平均入場者数		2010年度平均入場者数		
【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)		【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)		
山形	12,056	仙台	17,332	
鹿島	21,617	山形	11,710	
浦和	44,210	鹿島	20,966	
大宮	13,707	浦和	39,941	
千葉	14,730	大宮	11,064	
柏	11,738	F東京	25,112	
F東京	25,884	川崎F	18,562	
川崎F	18,847	横浜FM	25,684	
横浜FM	22,057	湘南	11,095	
新潟	33,446	新潟	30,542	
清水	17,935	清水	18,001	
磐田	13,523	磐田	12,137	
名古屋	15,928	名古屋	19,979	
京都	11,126	京都	10,510	
G大阪	17,712	G大阪	16,654	
神戸	13,068	C大阪	15,026	
広島	15,723	神戸	12,824	
大分	18,428	広島	14,562	
18チーム平均	18,985	18チーム平均	18,428	
【J2】(全体459試合) ホーム試合数		【J2】(ホーム各18試合、全体342試合)		
札幌	10,207	26	札幌	10,738
仙台	12,951	26	水戸	3,608
水戸	2,673	25	栃木	4,157
栃木	4,706	25	草津	4,424
草津	4,330	26	千葉	11,689
東京V	5,521	26	柏	8,098
横浜FC	3,535	26	東京V	5,572
湘南	7,273	26	横浜FC	5,791
甲府	11,059	25	甲府	12,406
富山	3,740	25	富山	4,463
岐阜	4,302	25	岐阜	3,108
C大阪	9,912	25	岡山	7,161
岡山	6,162	25	徳島	4,614
徳島	4,073	26	愛媛	4,386
愛媛	3,694	26	福岡	8,821
福岡	7,763	25	北九州	4,189
鳥栖	5,939	26	鳥栖	6,633
熊本	6,006	25	熊本	6,907
18チーム平均	6,326		19チーム平均	6,696

## 営業収入総額の推移

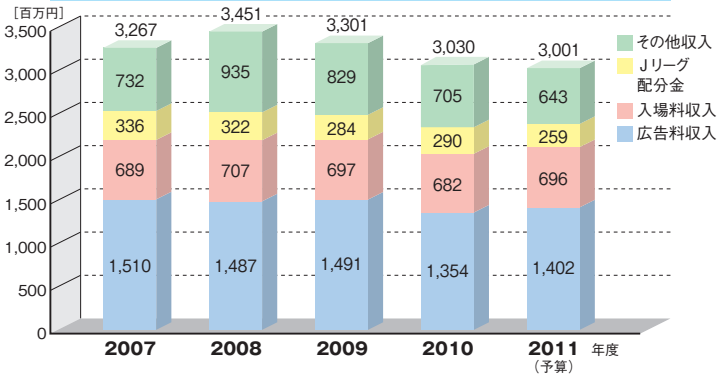


## 営業収入(クラブ平均)の推移

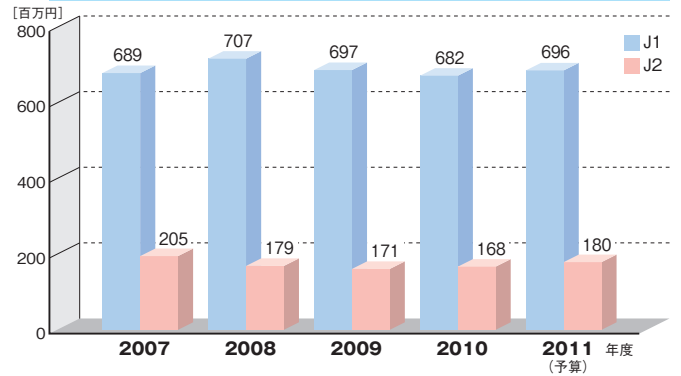


※四捨五入により、一部に合計が合わない箇所があります。

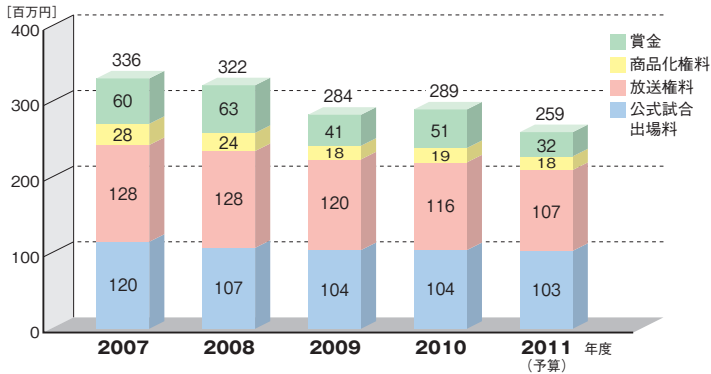
営業収入内訳の推移 (J1クラブ平均)



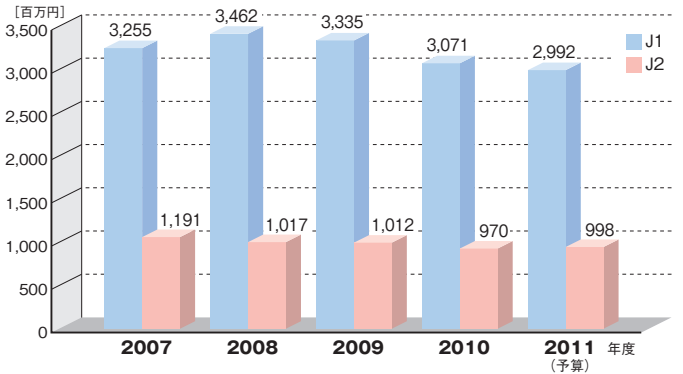
入場料収入(クラブ平均)の推移



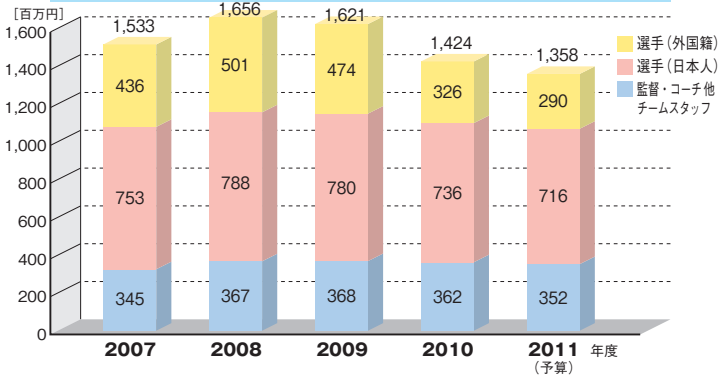
Jリーグ配分金の推移 (J1クラブ平均)



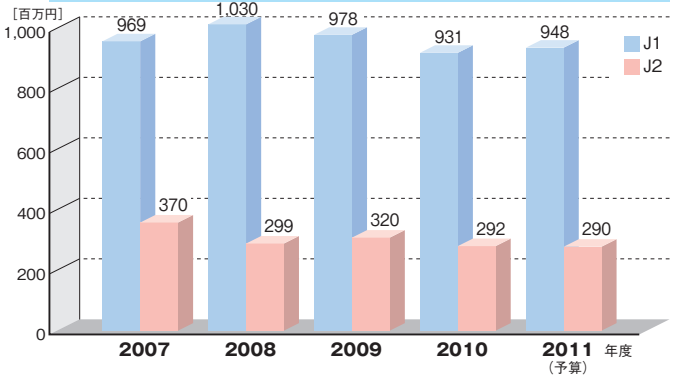
営業費用(クラブ平均)の推移



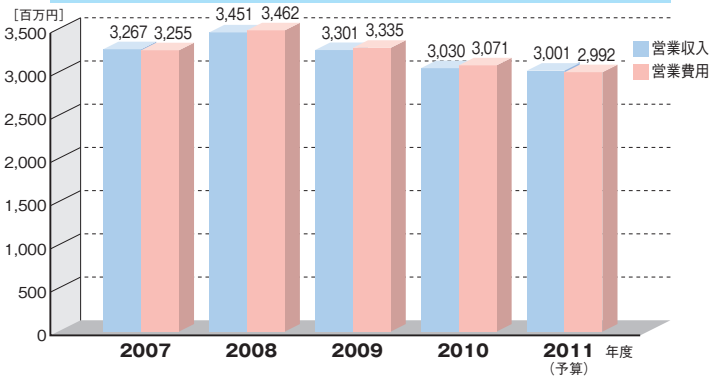
選手等人件費の推移 (J1クラブ平均)



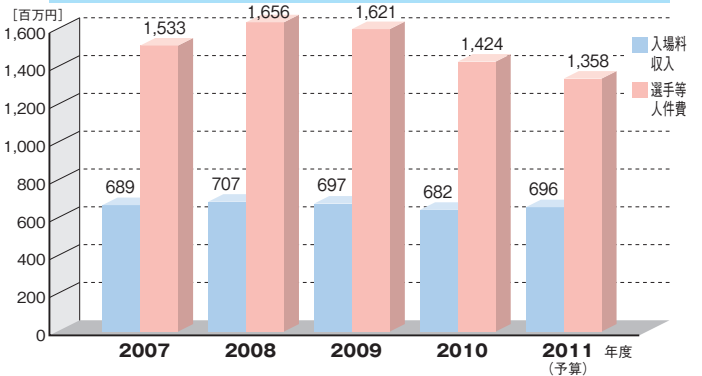
物件費(クラブ平均)の推移



営業収入と営業費用の推移 (J1クラブ平均)

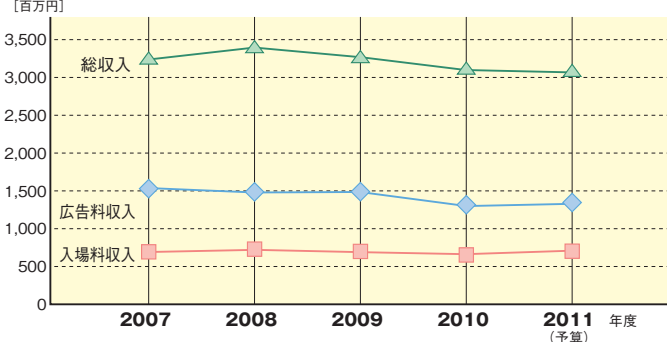


入場料収入/選手等人件費 (J1クラブ平均)



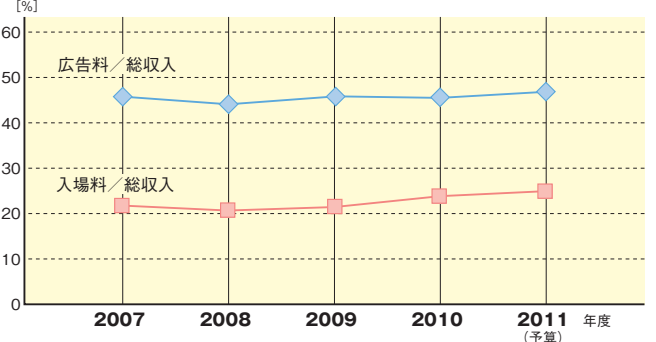
Jクラブ収入構造の変化1 (J1クラブ平均)

広告料収入・入場料収入・総収入推移



Jクラブ収入構造の変化2 (J1クラブ平均)

総収入に対する広告料収入・入場料収入の割合推移



2010年度Jクラブ個別経営情報開示資料

(単位:百万円)

クラブ名	J1																			J1総額	J1平均	
	仙台	山形	鹿島	浦和	大宮	F東京	川崎F	横浜FM	湘南	新潟	清水	磐田	名古屋	京都	G大阪	C大阪	神戸	広島				
決算期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年3月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期				
<b>■経営成績</b>																						
営業収入	2,041	1,229	4,466	5,625	3,308	3,671	3,540	3,565	1,288	2,216	3,486	3,151	4,103	2,311	3,346	2,554	2,035	2,605	54,540	3,030		
(広告料収入)	611	228	1,561	2,256	2,286	1,372	1,856	1,414	430	843	1,274	1,793	1,998	1,484	1,734	1,282	710	1,231	24,363	1,354		
(入場料収入)	790	349	747	2,249	375	779	603	932	360	770	744	408	880	348	553	428	401	560	12,276	682		
(Jリーグ配分金)	233	232	480	279	220	284	298	251	209	224	304	339	468	220	375	290	210	295	5,211	290		
(その他)	407	420	1,678	841	427	1,236	783	968	289	379	1,164	611	757	259	684	554	714	519	12,690	705		
営業費用	1,863	1,302	4,449	5,898	3,290	3,274	3,493	3,905	1,342	2,341	3,567	2,901	4,198	2,416	3,380	2,528	2,275	2,853	55,275	3,071		
(事業費)	1,593	1,122	3,816	5,217	2,802	2,437	2,831	2,962	1,041	1,850	2,984	2,308	3,677	2,030	2,626	1,938	1,810	2,385	45,429	2,524		
内選手・チームスタッフ人件費(注)	858	787	2,004	2,282	1,850	1,370	1,743	1,374	646	910	1,498	1,254	2,133	1,308	1,773	1,301	1,167	1,372	25,630	1,424		
(一般管理費)	270	180	633	681	488	837	662	943	301	491	583	593	521	386	754	590	465	468	9,846	547		
営業利益	178	▲73	17	▲273	18	397	47	▲340	▲54	▲125	▲81	250	▲96	▲105	▲34	26	▲240	▲248	▲736	▲41		
経常利益	193	▲73	33	▲259	0	393	47	▲339	▲53	5	▲79	263	▲153	▲250	11	24	▲54	▲259	▲550	▲31		
当期純利益	192	▲73	14	▲260	▲1	361	7	▲341	▲53	4	▲80	209	▲162	▲251	11	3	▲53	▲265	▲738	▲41		
<b>■財政状態</b>																						
総資産	1,152	191	2,561	1,450	441	1,349	1,039	719	354	897	962	948	797	1,269	1,037	724	913	977	17,780	988		
総負債	570	215	760	1,135	430	382	501	1,182	307	587	477	612	378	1,497	854	554	1,774	896	13,111	728		
純資産(山形は正味財産)	582	▲23	1,801	315	10	967	538	▲462	47	309	485	336	418	▲228	182	169	▲861	80	4,665	259		
資本金(山形は基本財産)	453	0	1,570	160	100	1,005	349	30	574	712	550	679	400	3,605	10	315	98	2,110	12,720	707		
繰越利益剰余金	128	▲23	83	155	▲329	▲37	158	▲499	▲732	▲403	▲64	▲342	18	▲3,833	172	▲145	▲1,520	▲2,029	▲9,242	▲513		

クラブ名	J2																			J2総額	J2平均	J1・J2総額	J1・J2平均	
	札幌	水戸	栃木	草津	千葉	柏	東京V	横浜FC	甲府	富山	岐阜	岡山	徳島	愛媛	福岡	北九州	鳥栖	熊本	大分					
決算期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年3月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年1月期	2010年12月期	2011年1月期	2011年1月期	2011年2月期	2011年1月期	2011年1月期					
<b>■経営成績</b>																								
営業収入	1,132	366	661	512	2,306	2,743	718	948	1,067	573	519	695	854	472	938	495	816	668	1,108	17,591	926	72,131	1,949	
(広告料収入)	440	91	327	216	1,373	1,998	279	574	499	324	188	277	538	162	377	117	194	296	372	8,642	455	33,005	892	
(入場料収入)	305	62	101	91	454	291	121	144	297	52	77	124	70	50	206	111	155	85	388	3,184	168	15,460	418	
(Jリーグ配分金)	107	117	98	104	114	117	104	98	117	107	98	101	99	100	105	136	74	123	107	2,026	107	7,237	196	
(その他)	280	96	136	101	365	337	214	132	154	90	156	193	147	160	250	131	393	164	241	3,740	197	16,430	444	
営業費用	1,366	380	656	571	2,622	2,698	1,081	947	1,056	593	505	727	799	495	925	493	829	665	1,018	18,426	970	73,701	1,992	
(事業費)	1,119	269	500	420	2,205	2,209	892	785	763	433	298	511	578	337	693	380	659	507	822	14,380	757	59,809	1,616	
内選手・チームスタッフ人件費(注)	500	152	278	187	1,349	1,485	347	545	473	199	186	282	375	216	401	169	290	251	473	8,158	429	33,788	913	
(一般管理費)	247	111	156	151	417	489	189	162	293	160	207	216	221	158	232	113	170	158	196	4,046	213	13,892	375	
営業利益	▲234	▲14	5	▲59	▲316	45	▲363	1	11	▲20	14	▲32	55	▲23	13	2	▲14	3	90	▲836	▲44	▲1,572	▲42	
経常利益	▲116	▲13	2	▲45	▲326	32	▲364	9	5	▲20	3	▲36	62	▲22	34	1	4	5	112	▲673	▲35	▲1,223	▲33	
当期純利益	▲116	▲16	1	▲56	▲312	28	▲363	5	0	▲16	1	▲36	23	▲22	33	1	2	4	115	▲724	▲38	▲1,462	▲40	
<b>■財政状態</b>																								
総資産	840	82	113	104	1,483	1,819	488	489	516	156	81	232	574	218	440	89	240	145	216	8,325	438	26,105	706	
総負債	937	117	51	181	1,224	999	486	477	305	33	177	193	140	28	353	65	181	183	1,268	7,398	389	20,509	554	
純資産	▲97	▲35	62	▲76	259	819	2	12	210	123	▲95	38	433	189	87	23	59	▲38	▲1,052	927	49	5,592	151	
資本金	795	52	243	185	490	100	242	343	367	96	130	76	409	208	125	137	454	211	468	5,131	270	17,851	482	
繰越利益剰余金	▲892	▲162	▲223	▲290	▲620	▲212	▲443	▲446	▲156	▲1	▲353	▲52	24	▲18	▲234	▲113	▲701	▲249	▲1,589	▲6,730	▲354	▲15,972	▲432	

(注) 含まれる項目

- ・監督・コーチおよび他のチームスタッフ人件費(アカデミーを含む)
- ・選手人件費(報酬の他、支度金、移籍金償却費を含む)

## U-16・U-15・U-14・U-13 2011Jリーグ選抜を オランダ／ブラジル／韓国 海外キャンプに派遣

Jリーグは、7月から9月にかけて、U-16、U-14 Jリーグ選抜をオランダ、U-15 Jリーグ選抜をブラジル、U-13 Jリーグ選抜を韓国にそれぞれ派遣し、海外キャンプを実施した。同キャンプは、Jクラブのアカデミーに所属する選手を選抜し、国際試合の経験を通じて競技力向上の機会を与えるだけでなく、海外文化に触れ現地の人々との交流を通じて豊かな人間性を育むことを目的としている。今号ではU-16、U-13のキャンプの様相を紹介、U-15、U-14のキャンプは次号でお伝えする。なお、派遣に際しては、アディダス ジャパン株式会社よりユニフォームなどの提供を受けた。

### U-16 Jリーグ選抜 オランダキャンプ



8月8～16日に行われたU-16 Jリーグ選抜の海外キャンプは3年ぶり2回目の実施。オランダのティールで開催された2011 RKTVC BVO国際トーナメントに出場した。大会にはオランダのクラブを中心に、12チームが参加。U-16 Jリーグ選抜は2日間で20分ハーフの試合を6試合行い、2勝1分3敗の成績。5位決定戦でゼニト(ロシア)に0-1と惜敗したもの、大会のフェアプレー賞を受賞した。

鴨池陽希(FC東京)は「自分に足りないものは何かを常に考え、プロ選手になるという強い意志を持って取り組んでいく」と語り、選手たちは貴重な国際経験で刺激を受けた。

現地の文化に触れる体験や交流では、オランダ名物である世界遺産の風車群を見学に訪れ、ティール市役所を表敬訪問。市役所では温かいもてなしを受け、キャプテンの島中楨之輔



6位となった国際トーナメントではフェアプレー賞も獲得

(東京ヴェルディ)が大会招待のお礼、東日本大震災後のオランダからの支援に対する感謝を述べた。また、Jリーグで活躍し、現在はオランダのフィテッセに所属する安田理大の招待により、エールディビジ(1部リーグ)のフィテッセvsVVVフェンロの観戦も実現。安田の他、吉田麻也、カレンロバート(ともにフェンロ)というJリーグでもプレーした選手たちが出場した試合を間近に見て、内田裕斗(ガンバ大阪)



リフレッシュを兼ねたサイクリングで風車見学に向かう



グループリーグ最終戦、KRCヘンク(ベルギー)との試合

は「とてもレベルが高く、僕も欧州でプレーしたいと強く思った」と興奮気味に話した。

### U-13 Jリーグ選抜 韓国キャンプ



3回目の実施となるU-13 Jリーグ選抜の海外キャンプは、7月31日～8月5日に韓国の蔚山広域市で行われた。35分ハーフのトレーニングマッチが中心となり、蔚山現代、釜山アイパーク、浦項スティーラーズというKリーグのクラブの育成組織チームと対戦し、4戦全勝。初戦の蔚山現代戦で、目標に掲げた「ゴールを目指す」「ボールを奪う」ことを忠実に実践して勝利し、選手たちは自信をつかんだ。また、サッカー以外では、特に食文化の違いを体感し、市内見学も楽しんだ。

団長・監督として参加した上野山信行 Jリーグ技術委員長は「若年層から海外を経験し、自分の長所、課題を知るのは非常に大切。日本は技術や戦術、アジリティーが非常に



トレーニングマッチに臨んだイレブン

優れており、常に勝負にこだわりながら、それらの長所を伸ばすように指導する必要がある」と、海外キャンプの意義を語った。また、山田陸(大宮アルディージャ)は「監督に『自分で突破しろ』と言われて、それがうまくできて自信になった。韓国の選手のプレーはとても激しく、今までこのような経験がなかったので印象に残った」と国際経験の感想を述べた。



最終戦となった浦項との試合に勝利し、4戦全勝の成績



上野山監督の指示を聞く選手たち

